

# 文教厚生常任委員会会議録

[平成24年10月15日開催]

南あわじ市議会

# 文教厚生常任委員会会議録

日 時 平成24年10月15日  
午前10時00分 開会  
午前11時45分 閉会  
場 所 南あわじ市議会委員会室

## I. 出席委員、欠席委員、事務局出席職員及び説明のために出席した者の職氏名

### 出席委員（6名）

委 員 長	川 上 命
副 委 員 長	久 米 啓 右
委 員	森 上 祐 治
委 員	小 島 一
委 員	蓮 池 洋 美
委 員	登 里 伸 一
議 長	楠 和 廣

### 欠席委員（なし）

### 事務局出席職員職氏名

事 務 局 長	高 川 欣 士
課 長	垣 光 弘
書 記	船 本 有 美
書 記	川 添 卓 也

### 説明のために出席した者の職・氏名

副 市 長	川 野 四 朗
市民生活部長	入 谷 修 司
健康福祉部長	藤 本 政 春
市民生活部次長	久 田 三 枝 子
健康福祉部次長兼長寿福祉課長	小 坂 利 夫
教育部次長	太 田 孝 次
市民生活部市民課長	塔 下 佳 里

市民生活部税務課長	藤	岡	崇	文
市民生活部収税課長	福	原	敬	二
市民生活部生活環境課長	高	木	勝	啓
健康福祉部福祉課長	鍵	山	淳	子
健康福祉部保険課長	川	本	眞	須美
健康福祉部健康課長	小	西	正	文
健康福祉部少子対策課長	田	村	愛	子
教育委員会教育総務課長	片	山	勝	義
教育委員会学校教育課長	安	田	保	富
	(学校教育指導主事)			
教育委員会人権教育課長	大	谷	武	司
教育委員会生涯学習				
文化振興課長	山	見	嘉	啓
青少年育成センター所長	高	辻	隆	雄

## II. 会議に付した事件

1. 所管事務調査について……………	5
(1) 教育の充実・文化、スポーツの振興と関係施設の整備について	
(2) 人権施策について	
(3) 税の賦課徴収について	
(4) 医療体制と健康づくりの推進について	
(5) 青少年の健全育成について	
(6) 福祉対策について	
(7) 介護保険と高齢化社会対策について	
(8) 生活環境の整備推進について	
2. その他……………	32

## III. 会議録

## 文教厚生常任委員会

平成24年10月15日(月)

(開会 午前10時00分)

(閉会 午前11時45分)

○川上 命委員長 おはようございます。定刻が参りましたので、文教厚生常任委員会をただいまより開催いたします。なお、蓮池委員につきましては連絡がついておりませんので。それと、きょうは執行部のほうで教育長、教育部長、教育長は隣の葬式、教育部長は検査入院ということでございまして欠席ということでよろしく申し上げます。

本当に月日がたつのは早いもので、私も委員長に就任して、はや来月で委員長が満期というとおかしいけれど、一応任期でございます。ことし1年間、人形会館を初めとし、また幼保、学校統合問題、また大学の問題、いろいろ問題点がありましたが、執行部、また議員の皆さん方の非常な御協力によりまして何とかここまでたどり着くことができました。ここに厚く御礼を申し上げる次第でございます。

そういったことでもう1回くらい文教が来月あると思いますが、その中で所管事務調査ということで、きょうは8件について調査したいと思います。その旨よろしくお願ひしたいと思います。

執行部のほう何か御挨拶がありましたら。

○副市長(川野四朗) おはようございます。ことしの夏は非常に暑かったわけなんです、ここへ来て今度は寒さを感じるような季節になってまいりました。本当に時の過ぎるのは早いなというような思いをしておるところでございます。今、行事がめじろ押しでございまして、いろいろ行事もこなしていただいておりますけれども、皆さん方にもいろいろと御来賓ということで御臨席をいただいておりますことも厚く御礼申し上げたいというふうに思います。

過日、淡路島の3市の副市長会で南三陸町のほうに初めて視察に行かせていただきました。私どもと洲本市も南三陸町へは職員を派遣しておるといふようなことでしたので、そういうこともあって視察させていただきました。まだまだ復興は目に見えておらないわけなんです、南三陸町の皆さん方、非常に復興に燃えて仕事されておるようでございます。私どもの派遣しております居内君も非常に元気で、皆さんに混じって南三陸町の復興のためにいろいろ努力しておるといふこともつぶさに見てこさせていただきました。これからもやっぱり復興については我々としても協力していかなければいけないなというふうな思いもいたしました。

そこで、副町長さんのほうからお話がありましたのは、例年は大体年間予算が80億円ぐらいだそうです。ことし補正予算を組みながら来たんですが、600億円の予算を組んでおるようでございます。私どもにとりましては、もう目の前が遠いような感じの数字だ

というふうなことを言っておられました。これを消化していくということには大変な作業だということをおられましたので、私どもも非常にその間の話として大変だろうなと同情の念を持ったところでございます。これからも一日も早い復興を願うわけですが、そういう視察もさせていただいておりますので、そのことを今後の防災にも生かしていきたいと思っておりますので、駄弁を弄しましたけれども、そういうことでございました。きょうは所管事務調査ということでございますので、どうかよろしくお願ひしたいと思ひます。

○川上 命委員長       きょうの委員会は何とか午前中に終わりたいと思っておりますので御協力のほどよろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、ただいまから閉会中の継続調査で申し出があります所管事務調査8件について一括して調査します。御異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○川上 命委員長       異議がございませんので、所管事務調査全般にわたって8件を一括して調査します。よろしくお願ひします。

小島委員。

○小島 一委員       二、三点お聞きしたいことがあるんですが、まず1点目、14日付でチラシ折り込みが入っておるようでございまして、看護学校の件ですけれども、このチラシを見ますと淡路の看護専門学校が廃止されるということに対する、柏原のほうは引き続き市に移管して募集と。淡路のほうが開鎖するのがあたかも市の責任であるかのように書いてあるんですけれども、これはせんだつても意見書を議会のほうからも出した経緯があつて、その後どういふふうになつておるのかということをちょっと御説明いただきたいといふふうにするんですけれども。

○川上 命委員長       健康福祉部長。

○健康福祉部長（藤本政春）       この10月14日付の三原民報ということで、私もけさ初めて見させていただいたんですけれども、柏原専門学校、それから淡路看護専門学校、この2つの学校を県は行政改革プランと、こういうふうな名のもとで昨年10月に2015年度で廃止すると、そういうふうなことを市のほうに打診があつたわけございまして、議会の先生方におきまして、昨年の12月に存続を求める意見書というようなことで県知事宛てに出しておるところでございます。その間、市といたしましてもやはり存続を求

めるというようなことで、市長を初め副市長、県当局といろいろ協議を行ってまいっております。それで、県のほうが廃止するのであれば民営化として存続をさせてほしいというようなところでいろいろ協議を行ってきたわけですが、現在の時点で申し上げますと、ある民間事業者さんが2015年度以降、民営化というような方向で引き続いて運営をしたいというところで県のほうと調整、いろいろ協議が進んでおるところでございます、県が廃止になった後はその民間事業者がその学校を引き継いで運営していくと、そういうことになるであろうと考えております。

○川上 命委員長 小島委員。

○小島 一委員 ある民間事業者が2015年ということで3年ほどブランクができるような格好ですけど、当然そういう市立病院とか医療機関を持っていないものが市としてこういう看護学校を運営するというのは、これはもうできないという話でございますし、その民間について信用できるというか、そういうふうな教授陣等々、当然看護であったり医者であったりというふうなものが必要かと思うんですけども、そういう医療法人みたいな団体で考えておられるんですか。

○川上 命委員長 健康福祉部長。

○健康福祉部長（藤本政春） 法人はどのような種類かと申されますと、医療法人でございます。この医療法人につきましては、かなり以前にこういう淡路看護専門学校の廃止とか、そういう話もございました。そのときにも何か県のほうとは協議をしておったそうでございます、その当時から引き続いて今回また新たにそういう県との協議を進めておられるというところぐらいの情報しかないんでございますけれども。そういうところでございます。

○川上 命委員長 小島委員。

○小島 一委員 市としたらそれに対してどういうふうなバックアップというか、体制をとられるつもりか。そういう考えがあるのかないのか、またちょっとちらっと教えてほしいんですけども。

○川上 命委員長 健康福祉部長。

○健康福祉部長（藤本政春） 民営化に関して今からどういうふうに事業者さんと県と

協議が調っていくのかと、そこら辺も十分わかりませんが、柏原専門学校のほうでは市が直営ですと。県のほうもかなり大きな支援をしていくというようなことも聞いておりますので、南あわじ市につきましても、その事業者さんがするとなればいろんな協議は必要であろうと思っております。

○川上 命委員長 小島委員。

○小島 一委員 今後ちょっと推移を見守りたいなど。ぜひともできるだけ早いうちに再開をできればというふうに思っております。終わります。

○川上 命委員長 ほかに。  
小島委員。

○小島 一委員 2点目ですけど、今、倭文の公民館が公民館として運営を始めておるんですけども、しづおり防災館がスペース的に非常に公民館活動をする上で手狭であるというふうなことを聞いておるんですけども、こういうふうな話は担当課のほうへ行っていますか。

○川上 命委員長 課長。

○生涯学習文化振興課長（山見嘉啓） 生涯学習の山見でございます。今、委員御質問の倭文防災センターでのいわゆる公民館活動の部分として捉えますと、現場のほうから狭いというはっきりとしたそういった申し出等はありません。ただ、現場は私も知っております。そんな中で、これからの公民館活動がさらに充実、活発化してくれば当然ながら手狭なのかなという感はいたしております。

○川上 命委員長 小島委員。

○小島 一委員 主に1階は調理室等で、2階の会議室みたいなのがあるんですけど、これは子供の放課後の学童保育に使われていまして、机にちゃんと子供一人一人の名前とか私物を置いてありますので、なかなかここを公民館活動の部分に使うということが今難しいような状態になっておるのかなというふうに思っています。建物自体は3階は当然防災備蓄庫でありますので使えませんし、このあたりを本来の公民館としてどうなのかなと。もし地元からの要望があれば、それを改造したり増築したり移しかえたりということはできるのか考えられるのか。どない考えてます。



○川上 命委員長 山見課長。

○生涯学習文化振興課長（山見嘉啓） まず2階の会議室のほうですけども、学童保育のほうで活用されていると。昼間になってきますので、うまく使えば当然夜間は住民の方々の公民館活動には差し支えないのかなと。当然上手に使っていかないと子供たちのいわゆる机表示もあるというふうなことも聞いております。あと今後、改造、増築、そういった点についてなんですけども、小学校、こういった施設との兼ね合いもあるのかなというふうな中で慎重に検討すべきかなと考えます。

○川上 命委員長 小島委員。

○小島 一委員 小学校の中の空きスペースを活用して学童保育に使えば一番えんかと思うんですけども、以前にも若干私使わせていただいたことがあるんですけども、やっぱり子供の机、私物がかなり置いてございます。それをまた後でいろいろとなくなったり問題も発生するので、使えるとは言いながらも使いづらい格好で、机の配置を勝手に並べかえてそれが従前の配置と違っておればまたそれでいろいろトラブルも生じるような感じもございますし、これはやっぱり地域とよく相談して、学校も含めた中で、学校の統廃合から、倭文の地区においては消防の問題とかいろいろたくさんあるんで、そこらをひっくるめて所管だけではなかなか解決できん問題が多いのかなと思うんですけども、そういうことを公民館の運営協議会というのはあるんですかね。そこらも自治会とも相談しながら改善していくというふうな考えでおってほしいと思うんですけども、どないですか。

○川上 命委員長 山見課長。

○生涯学習文化振興課長（山見嘉啓） そのあたり地域との調整を図りながらというふうなことで見据えていきたいと思います。

○川上 命委員長 久米委員。

○久米啓右委員 公民館の話が出たので公民館のことからお伺いします。9月補正のフォローということで、公民館改修費が830万補正されたので、その辺のこと、総務のほうの委員会の審議は詳しく聞いていないんですけども、具体的にどこの公民館が改修されるのかわかりますか。

○川上 命委員長 山見課長。

○生涯学習文化振興課長（山見嘉啓） 三原志知公民館の事務所等の改修になってきます。

○川上 命委員長 久米委員。

○久米啓右委員 市長公室が進めておる市民交流センターと関係ない改修なんですか。

○川上 命委員長 山見課長。

○生涯学習文化振興課長（山見嘉啓） 関係ございます。三原志知公民館につきましては、事務所がかなり手狭というような中で、その事務所を広く拡張する必要がございまして、1階のあたりの部屋を改修していくという予定になっております。

○川上 命委員長 久米委員。

○久米啓右委員 交流センター開設に向けての準備、改修工事ということですね。これはたくさんそんな地区があるかなと思うんですけども、具体的に計画が上がっているのはその三原志知だけですか。

○川上 命委員長 山見課長。

○生涯学習文化振興課長（山見嘉啓） 今年度実施するのは三原志知地区でございます。既に23年度におきまして三原志知公民館の市民交流センター開設に伴う改修の設計のほうを実施されておりまして、早目の行動というようなことで補正のほうを挙げさせていただいております。モデル地区のいわゆる開設の関係もあるというふうなことからでございます。

○川上 命委員長 久米委員。

○久米啓右委員 もともとある920万の予算は、また別のところというふうに考えておったらいいですね。これはどこですかね。

○川上 命委員長 山見課長。

○生涯学習文化振興課長（山見嘉啓） 公民館全体の改修の中で、例えば三原公民館のいわゆるクラックなんかも入ってきております。そういった調査、総合的なところの合計でございます。

○川上 命委員長 久米委員。

○久米啓右副委員長 わかりました。もう1つ補正のフォローなんですけど、太陽光で400万追加になっております。8月28日時点で67件の、書類で15件保留ということで、決算のとき説明あったかと思うんですが、その後の動きをお願いいたします。

○川上 命委員長 生活環境課長。

○生活環境課長（高木勝啓） 現在の状況を申し上げますと、申込件数が86件、申請の金額が653万6,000円。つまりそれ以降も需要が伸びておまして、補正して合計が800万になるんですけども、予算の残額が150万円を切っております。このままいきますと年度末にはこの金額では足りないぐらいの需要がございまして、年末、年度末を見据えましてその後の動向を今推移しておるところでございます。

○川上 命委員長 久米委員。

○久米啓右委員 申請がまだまだ進んでおることですが、これは次年度については予算要求について何か考え方はありますか。

○川上 命委員長 生活環境課長。

○生活環境課長（高木勝啓） 今年度はやはり売電価格が魅力的ということで、駆け込みの申請もまだあると思います。来年度予算につきましては、やはり売電価格によりまして多少少なくなるのではないかなというような考えでおりますけれども、ことしは県の予算、また国の方針等もございまして、まだまだ年度末に向けまして伸びるような予測をしております。

○川上 命委員長 久米委員。

○久米啓右委員 来年度から売電単価が変わるんですけど。何ぼになるんですかね。

○川上 命委員長 生活環境課長。

○生活環境課長（高木勝啓） これはまだはっきりした情報は入っていないんですけども、やはり今の売電価格は非常に高いというように感じております。

○川上 命委員長 久米委員。

○久米啓右委員 今年度に対しては9月補正以外で何か、このままだとあと残り150万の補助しかできないということなんですけれども、その辺で今年度についてはどのように考えてますか。

○川上 命委員長 生活環境課長。

○生活環境課長（高木勝啓） やはり需要のある限り、また予算のほうを補正するようなことで、増額というようなことで今検討しておるところでございます。

○久米啓右副委員長 わかりました。終わります。

○川上 命委員長 森上委員。

○森上祐治委員 給食センターの統合に向けた進捗状況についてちょっとお尋ねしたいと思います。おさらいという意味で4点ほど簡単にお聞きしたいと思うんですけども、まず統合に向けた日程、それからふえる食数、それから統合に伴う環境整備について、それから職員数の動き、その辺の4点、どないになっているかということをお答えいただきたい。

○川上 命委員長 教育総務課長。

○教育総務課長（片山勝義） 失礼いたします。まず日程につきましては、来年の4月1日を目標に進めさせていただいております。それから食数につきましては約4,000食のところ4,800食、それより少しは減ると思うんですけども、約4,800食ということで、あと環境整備につきましては、統合によりましてアレルギー食の対応をいたしますので、ただいまアレルギー調理室の増築の工事にかかっているところでございます。あと備品類の購入につきましても現在進めているところでございます。職員数につきまして

は、現給食センターの職員プラス6名の予定をしております。

○川上 命委員長 森上委員。

○森上祐治委員 4,000食から4,800食になるということ、大きいと思うんですけども、この統合については当初、特に組合立の広田小中学校の保護者あたりが非常に不安がっておりました。1つは給食というのは基本的には自校給食がベストやと従来言われてますよね。それがかなり距離が離れたところから持ってこられると。これはサービス低下になるのではないかということと、緑の給食センターでは非常にきめ細かいアレルギー対応の給食を実施していたというようなことで、当初かなり不安視する保護者も多いということをお聞きしておったんですけども、その辺をクリアして、今課長がおっしゃったようにアレルギー対策、アレルギー室をつくるというような動きがございました。これも何かちょっと聞きますと、2回か3回か、なかなか入札して落札が決まらなかったということを知ったんですけども、具体的にアレルギー室というのはどんなものなんですか。

○川上 命委員長 教育総務課長。

○教育総務課長（片山勝義） ただいまも入札の話もありましたが、工期につきましては9月4日から1月30日までの工期で、ただいま増築部分にかかわる車庫を改築せんなんもんですから、そのような準備等も進めてございます。このアレルギー室につきましては、アレルギー調理につきましては基本的に現在の調理室と別の部屋で材料の搬入から調理までを進めるという形で、別室で完成まで仕上げるというようなことの対応をしていく予定でございます。あと、自校サービスの部分につきましては、給食の調理後、喫食時間ということで2時間を標準とするというようなこともありますので、給食の配食する車の台数の増を図って、その2時間以内の喫食に向けて配食の工程も見直ししながら進めていく予定にさせていただいております。

○川上 命委員長 森上委員。

○森上祐治委員 ハード面のアレルギー室は鋭意統合に向けて建設が進んでいるということなんですけども、このアレルギー対応については、やはり給食、調理する工程で非常に微妙ないろんな点があると思いますね。規則であるとかマニュアルであるとか、その辺の作業は進んでおるんですか。

○川上 命委員長 安田教育課長。

○学校教育課長（安田保富） 調理に対するマニュアルというよりは、今後アレルギー対応食を提供するためにどのように対応する児童生徒を決めていくか、どういうふうにやっていくかというような食物アレルギー対応給食実施基準というのがただいまできておりまして、来週の月曜日ですが、各学校への説明会等を実施する運びとなっております。

○川上 命委員長 森上委員。

○森上祐治委員 その基準なんですけども、今までそういうアレルギー云々の実施しているところの話を聞きますと、そういう基準を作成する過程でプロジェクトチームとか委員会形式的なものをつくっているやに聞いたんですが、その辺はちょっと現場の校長らに聞いたら、そんなの知らんというようなことなんで、その辺どないなってるんですか。

○川上 命委員長 教育課長。

○学校教育課長（安田保富） 給食センターの栄養教諭、それから私たち教育委員会事務局で何回か会議を持ちまして作成していったところでございます。

○川上 命委員長 森上委員。

○森上祐治委員 それはそれで、できたものを原案を今度校長会なり給食担当者の先生、いわゆる給食委員会ですね、そこで報告するという動きなんですけども、よそのことを聞いてたら、こういう重要な問題については、今聞いたら栄養教諭を中心にして教育委員会の事務局と案をつくったと。やはりもうちょっと現場の声も吸い上げながらつくるほうがベターだったと違うかなと思うんですけども、これはこういう動きなんで置いておきたいと思うんですが、こういう大きな統合という動きの中で、私もたまに給食センターに顔を出して、所長さんなり話を従来聞くことがあったんですけど、どうも私の個人的な観念なんですけど、給食センターの事務室といわゆる調理室と職員の交流というのはどうも私、長年学校に勤めてきた関係で、例えば校長や教頭と職員の関係とは違う感じがするんですよ。壁があるような感じを私は従来ずっと持ってました。その辺、教育総務課長はどういう評価をされてますか。現場の給食センターの事務室の動きについてちょっとお聞きしたい。

○川上 命委員長 教育総務課長。

○教育総務課長（片山勝義） 事務室と現場の調理、また配送等につきましても、毎日反省会、ミーティングを行って会を持ったり、次の日の準備について等協議しております。そんな中でいろんな協議や理解ができていってるものと思っておりました。

○川上 命委員長 森上委員。

○森上祐治委員 多分、教育総務課長もお忙しいので、給食センターへしょっちゅうお伺いするということはないんですけども、例えばそういう職員と事務室の所長なり正規の職員がおりますよね、その辺との定期的な会合とか、そういうシステムはつくっておるよう把握されていますか。

○川上 命委員長 教育総務課長。

○教育総務課長（片山勝義） ミーティング等の中で、またこのたびは来年に向けて課題のあります統合の話について詰めていったり、また、各職員さんとは年何回かの面談等も通じて所長なりとの理解ができていってるものと思っております。

○川上 命委員長 森上委員。

○森上祐治委員 御承知のように、食育という言葉がここ10年来、教育界で前面に出てきております。私らが若いころは食育という言葉が教育界にはなかった。それが今、学校教育法にもその文言が出てきてるので、子供たちの給食ということが非常に大事な教育活動の1つとされておるんですけども、その元締めである給食センターの所長、これは私の個人的な意見なんですけれども、今の南あわじ市の所長をずっと見てましたら大体教育部長とか、部長さんの次に最後1年なり2年なり仕事をされておると。非常にベテランの方が行かれておる。これもいいことなんですけど、私は全国的な今の教育界での食育の位置づけを見ておったら、もっと給食というのは前向きに攻めの給食活動をしていかないかと時代やなと思っています。そのためにはもうちょっと若手の職員を、これは課長に言うてもあれだから、副市長あたりに見解をお聞きしないとあかんですが、そういうバリバリの今後はもっとやってやろうというような課長級、次長級の人、そして任期も3年ぐらいはびしっと腰を据えて動けるような体制をつくったらどうかと思うんですけど、副市長、その辺何かお考えございませんか。

○川上 命委員長 副市長。

○副市長（川野四朗） 考えはまだ今持ってませんが、委員さんの御意見はよく拝聴した上で今後のものに生かしていきたいと思います。

○川上 命委員長 教育総務課長。

○教育総務課長（片山勝義） 先ほどの御質問の中で、日程等のところで少し説明が足りませんでしたので、追加させていただいてよろしいでしょうか。

条例規則の改正等につきましては、12月議会で上程させていただく予定にしております。条例につきましては、南あわじ市学校給食共同調理場条例でございます。また規約等につきましては、市議会で議決を賜る必要がありますので、組合の規約の改正廃止、また制定等につきまして上程を予定させていただいておりますので、よろしく願いいたしたいと思います。ありがとうございました。

○川上 命委員長 ほかに。  
登里委員。

○登里伸一委員 生活環境に関するごみのことでお尋ねします。西淡地区は御存じのように、ごみステーションをつくって、そこで飛ばないように管理して分別しておりますね。昔は収集していたのが直営だったものですからきれいにしてくれてたんですが、このごろの業者さんになってから、何もかも一遍にぼんと乗せて、コンテナも何もかも皆乗せて、網のあれも皆乗せてだあっと行って、それから返ってきてこれを置いていくんですね。もともとは自分のところは皆一生懸命、当番がちゃんとおりますからきれいにしておるんです。ところが今度返って置いてくれているのが、もう汚れたやつや汚いやつがそのままなんです。そうしますと、初めは掃除を一生懸命しよったんやけども、全然もう追いつかんようになってしまって、このごろ舛添さんじゃないですけども、ごみ出しは私の仕事なんです。それでいつもよくわかるんですが、せっかく分別してちゃんとしておっても、ほんまにあの網の袋なんかでも汚くてね。あれは地元の人にも言われてるんですが、もっときれいに返してくれと。我々もきれいに使うからというような状況で指導してくれということなんです、その辺は所管はどうなんでしょうか。

○川上 命委員長 生活環境課長。

○生活環境課長（高木勝啓） コンテナ等の回収は業者のほうで洗浄するということになっておりますので、いま一度、委託業者によく洗うように、清潔にするようにというような指導をさせていただきたいと思います。



○川上 命委員長 登里委員。

○登里伸一委員 よくテレビで洗淨をジャーっとしてますね、高圧か何かで。ああいうのでサーっとやってもろうたらまるで違うんです。

それと他の地区、旧南淡、三原、緑のほうではどのような状況なのかお聞きしたいと思うんですが。

○川上 命委員長 生活環境課長。

○生活環境課長（高木勝啓） それはコンテナやネットの状況でございますか。収集の状況でしょうか。コンテナとネットにつきましては、品目によりましてネットコンテナというふうな使用をしておるんですけれども、その件におきましても住民からの苦情がありましたら、そういう対応をしてくれというような形で指導しておるのが現状でございます。

○川上 命委員長 登里委員。

○登里伸一委員 私の聞きたいのは、返っているコンテナとかいろんなものはきれいな状態で返っているのか、それともいつもと一緒にばあっとやったやつをなんですか。大概、車とかそんなので汚れておるものですかからね、どうしても汚くなる。その辺はどうなんでしょうか。

○川上 命委員長 生活環境課長。

○生活環境課長（高木勝啓） コンテナの洗淨につきましては、従来、地元の方もしていただいておりますような状況もあつたんですけれども、委託業務も統一いたしましたので、業者のほうにお願いしておる状況でございますけれども、またどうしても洗っても落ちにくいというようなものや壊れておるようなコンテナも目につきますので、そういうのは今年度から幾らか新しいものと交換というような形で考えております。

○川上 命委員長 登里委員。

○登里伸一委員 洗ってくれたら、ほんまにきれいになる。これはもう大丈夫です。ですから、できるだけそういう指導をしていただきたいなということでございます。

次に、新淡路人形会館の入場者数をこの間いただいたんですが、次の9月、10月の1

カ月はどのような状況でしょうか。

○川上 命委員長 教育部次長。

○教育部次長（太田孝次） 新聞等で発表された8月8日から9月7日までの1カ月に  
つきましては4,700人というような報道がされておりました。その後におきましても  
大体日平均150人程度ということで、前年度に比べますと4割から5割程度ふえており  
ますが、こちらとしての目標としていた開館後は8万人ペースだというようなことを考え  
ておりました。そういうことに比べますとやはり250人以上というような感じになっ  
てきますので、それに比べるとやはりやや出足が鈍いと、減少しているという感じを持っ  
ております。

○川上 命委員長 登里委員。

○登里伸一委員 秋が一番よく入るような、春もそうでしょうが、新聞にもそういうこ  
とが書いてありましたけれども、これは事実なんですか。

○川上 命委員長 教育部次長。

○教育部次長（太田孝次） 例年一番多い時期は5月と11月というふうになっており  
ますので、我々にしてもそうした人形まつりの月間ということで、そういう位置づけで今  
後集客対策を考えておりますし、小中学校、そしてまだ具体的な考えはないんですが、老  
人会等にもお願いをしようかなというような感じを持っております。集客対策を考えてお  
ります。

○川上 命委員長 登里委員。

○登里伸一委員 実は最終的には8万人に向かつての具体的なことを、どういう考えを  
持っておるのか、一般質問等も言うておりましたし、方策を具体的に聞こうと思ったん  
ですが、今はまだそこまで行っていないような雰囲気なので、また次に回します。

ちょっと大ざっぱで申しわけないんですが、学校統合に向けての現状の報告していただ  
きたいと思いますが。

○川上 命委員長 教育課長。

○学校教育課長（安田保富） 9月の委員会でも御報告いたしましたが、それから1か月でございます。その間の進みぐあいでもよろしいでしょうか。その間は主に辰美中学校と御原中学校の統合につきまして、あれ以降、御原中学校区の関係者の方に集まっていたいて、校名であったり校歌、校章等についての協議を行いました。それから先日、10月に入りましてからは、辰美小学校の保護者、それから御原中学校区の松帆小学校、湊小学校、西淡志知小学校の保護者への説明会、今週ですが、今後両中学校の保護者への説明会をすることになっております。これが中学校関係でございます。

あと幼稚園の関係では、阿那賀、それから伊加利幼稚園のほうの保護者の方と来年度の進め方等についての協議を9月下旬に行いました。また丸山幼稚園の保護者の方との懇談会ということで、これも10月の初旬に行っておるところでございます。あとの統合等につきましては、それ以後いろんな会議等は今のところはございません。

○川上 命委員長 登里委員。

○登里伸一委員 老人会のときとか敬老会、それと運動会とか、いろんなところで制服はこんなのですよとかいうようなのでちゃんと展示もしていろいろと地域の人たちにも見てもらっているなという感じしておりますが、学校同士の生徒同士の交換的というか、そういうなれ親しんでいくための行事はまだこれからですか。

○川上 命委員長 教育課長。

○学校教育課長（安田保富） 中学校ですけれども、両校の生徒の交流につきましては先日も1年生でわくわくオーケストラ教室というようなものがございまして、これは同じ日に行くことになっておりまして、1年生が交流したところでございます。あと文化祭、それから2年生は授業等の交流を11月等に計画をしておるところで、順次いろんな面のできるだけ交流するよというようにございまして、先日のわくわくオーケストラ教室というのがございましたが、1年生それぞれの学校の様子を聞いてみますと、本当に何年も一緒に生活しているような感じで和気あいあいとやっていたというような報告も聞いておりますので、その面につきましては安心してるところでございます。

○川上 命委員長 登里委員。

○登里伸一委員 時間的には来年の4月ですから非常に短いと思います。頑張ってもらいたいなということでございます。

それから、教育長もおりませんので、いじめの問題はまた次にします。終わります。

○川上 命委員長 森上委員。

○森上祐治委員 秋は運動会シーズンでありますので、運動会のことについてちょっと質問したいと思います。1点は学校の運動会、昔から秋は運動会という、これはもう定番の大きな行事だったんですけども、最近はどうも市内の小学校の運動会は秋じゃなしに5月にしようという動きが見られるということを知ったんですが、その辺の動きの実情についてまずお伺いしたい。

○川上 命委員長 教育課長。

○学校教育課長（安田保富） 数年前からですが、特に校舎の改修であったり、そういうところから夏休みから9月にかけてが工事が非常に多いんですが、それによりまして秋の運動会がなかなか難しい学校が春にし始めたというようなところで、春にしますと、1年生にとりましては入学直後で非常に大変だという意見もあったんですが、やはり最近残暑が非常に厳しい9月でございます。5月、連休明けからの練習等で非常に気候的にいいというようなことでそういう評価がされてきまして、だんだんと小学校のほうでは、特に体力的に課題のある小学校のほうでは春へということ、ことしで6校がなっております、来年度もそういう検討をしている学校もあります。

○川上 命委員長 森上委員。

○森上祐治委員 このような動きは、南あわじ市独自なのか、全国的な傾向なのか、その辺はどのように認識されてますか。

○川上 命委員長 教育課長。

○学校教育課長（安田保富） 全国的な傾向は私のほうはちょっと捉えておりません。

○川上 命委員長 森上委員。

○森上祐治委員 私も現場におったときに、やはり秋の陸上のシーズンとダブるということで、非常に子供に負担になるということで、学校1校、春に運動会されたというのを聞いたんですけども、その後、今課長がおっしゃったように校舎建築の関係で、その年だけかと思ったら、一旦道がついたらずっと5月に運動会してるというような学校、それ

からずっと年々ふえている感じなんですね。その辺の動きはどうなのかなというような疑問を持ってました。

これはこれで置いておいて、次に住民の運動会についてちょっとお聞きしたい。たまたま昨日も私の地元の阿万地区住民親善体育大会というのがありまして、阿万の住民が大勢どっと一堂に会して盛大に実施されました。21種目の競技が行われたんですけど、この住民体育大会というのは阿万の場合、私が子供時分のときから既に定着しておりまして、60年近くずっと続いているんじゃないかと思うんですね。最近はずいぶん運営がえらくなって2年に一遍というような感じになっておるんですけども、この住民運動会、いろんな呼び名があらうと思いますが、これも唐突な質問で申しわけないんですが、生涯文化振興課長、市内の基本的に小学校区で実施されてるものですけど、今実施の内容、状況というのはどんなもんなんですか。

○川上 命委員長 山見課長。

○生涯学習文化振興課長（山見嘉啓） この住民運動会につきましては地区住民のまず1番がコミュニケーションの醸成というところで自治会が主催というふうな中で開催されているところが多いと思います。あわせて地区の体育協会と一緒にですね。現在旧の小学校区含めて21の地区がございますけども、その中で住民体育祭、従来のいわゆるゲームを含めた形の運動会、これが12地区開催されているようです。うち毎年開催されているのが9地区、あと隔年で3地区開催されているというふうなところなんです。その12地区のうち地区の幼稚園、また小学校、沼島ですと中学校も一緒ですけども、そういった地区と一緒に開催されているのが6地区ございます。ほか、地区運動会のほうからいわゆるニュースポーツの例えばグラウンドゴルフ大会にかわったり、そういった中で少子高齢化、あわせて従来の地区運動会、リレーであったりそのあたりのいわゆる競技への参加が難しくなってきたおる中で、あわせて世話をされる方々の部分も少し弱くなっているのかなというような中で、全体的にはやはり減少していつていると感じております。

○川上 命委員長 森上委員。

○森上祐治委員 今、課長も全体的には従来の住民運動会形式的なものが減少してきているというような認識を、実態を報告されましたけれど、私もきのうずっと1日参加していて、やはり住民が一堂に会して1日過ごすというのは考えてみれば祭りのときかこの住民運動会、祭りのときのほうが多いかもわかりませんが、住民運動会はいろんな人に会いますよね。さっき課長、コミュニケーションが大きな狙いやとおっしゃってましたけれども、まさに1年間、あるいは2年間、顔を見せてなかった人が、先輩の人が、車椅子に乗

って応援に来ておると。かつてのスターもこうなったかというようなことで、話もきのうしたんですけどね、そういうことが非常に大事だと。私も毎年、伊加利地区の国際交流の運動会に招待されて見に行くんですけども、あそこはほんまに行ったら非常に温かい感じがしますね。人数も非常に少ないところなんですけれども、地域の人がお膳立てしてよそから学生も来て、幼稚園から年寄りまで運動会をやると、相当なエネルギーだと思うんですけども、現在こういう少子高齢化社会の進行する中で、こういう地域の体育協会等、相当縁の下の力持ちのエネルギーを要する動きだと思うんですが、やはり継続して進めていく必要があるんじゃないかと。きのうも阿万でも、そこらの単なる話で、ひょっとしたらことしで最後かもわからんというような人もおるとというような物騒な話も出ておったんですけども、そんなことはないだろうと。これだけ盛り上がってるのに、皆住民が喜んでおるんだからというようなことで、その辺、生涯文化振興課長としてはこういう住民運動会が今グラウンドゴルフ大会にかわっていっておると。老人会専属のグラウンドゴルフ大会が花盛りなんですけど、住民全体もグラウンドゴルフというような動きもあると。それはそれでええとしてですね、そういう住民運動会の形というものに対して課長はどのような見解をお持ちですか。

○川上 命委員長 山見課長。

○生涯学習文化振興課長（山見嘉啓） やはり委員もおっしゃいましたように、地区住民のコミュニケーションをとるためには本当にいい催しだと考えております。いかんせん地区のコミュニケーションの希薄化、これが叫ばれている中で、どこまでそれを継続できるかというのは本当に難しい問題かなと思います。やはり縁の下の力持ち、地域のいわゆる住民でお世話をやく方々、これがどれだけ確保できるかにかかっているかだと思います。何とかそれを継続していただきたいという思いがあります。

○川上 命委員長 森上委員。

○森上祐治委員 阿万の場合をずっと見てましたら、やはり芯になってるのは体育協会、体協、それから町内会、自治会、それから老人会、婦人会、その辺が主になってやっとなんですけど、総出ですよ。特に若い人たちの集団的な組織としたらやっぱり体育協会、これは補助金とかいろいろあろうと思うんですけども、その辺、今課長ちらっとおっしゃってましたように補助金を手厚くするとか激励して何とか各地区の住民大会、やめたところも復活できるような、そういう動きで頑張っていたきたいなという要望を申し上げて質問を終わります。

○川上 命委員長 答えは要りますか。

○森上祐治委員 結構です。

○川上 命委員長 暫時休憩いたします。11時10分まで。

(休憩 午前10時57分)

(再開 午前11時10分)

○川上 命委員長 再開いたします。

○久米啓右副委員長 川上委員長。

○川上 命委員 安田教育課長に聞くんですけど、先ほど説明しよった、この23日、伊加利で通知を出して説明会ということですが、これは何の説明会をするんですか。

○久米啓右副委員長 学校教育課長。

○学校教育課長(安田保富) 23日の伊加利地区の説明会は、先ほど申し上げました中学校の統合につきまして、9月初旬にも説明会をしたんですが、その後いろいろな具体的なことが決まってきておりますので、その説明をするのが1点と、幼稚園につきまして、今年度も伊加利幼稚園と阿那賀幼稚園の交流等を積極的にやっておりますが、それについても来年度も引き続きそういった取り組みをするというような報告をさせていただいて、御理解をいただくというようなことでございます。

○久米啓右副委員長 川上委員長。

○川上 命委員 この辰中との学校統合、幼稚園についてもいろいろと個人的な意見があって、うわさが飛び交うし、我々も地元議員として一番の厚かましいほうやさかい攻撃的にもなる可能性もあるわけです。そういった中で、幼稚園を阿那賀のほうへ来年は持っていくというようなことも聞いておる。いやそんなことはない、伊加利でやるのと違うのとかいろいろあるわけやね。延長保育、幼稚園のほうも伊加利は4時40分ぐらいまでしとるということで、これははっきり言って、幼稚園の幼保一元化というような形の中での暫定的なことですか、それとも統合そのものを視野に入れた中で準備が整うまでの間の

そういったことなのかちょっとお聞きしたいと思います。

○久米啓右副委員長          学校教育課長。

○学校教育課長（安田保富）          これは先月も同じことを私申し上げたと思いますが、将来的には4園を統合するというので、それに向けていろんな条件整備をしなければいけませんので、それまでの間、今まで保護者からの要望があった保育時間の延長であったり、または集団での保育であったり、そういうことを可能にするために暫定的にそれまでの間積極的に交流していくというようなところでございます。

○久米啓右副委員長          川上委員長。

○川上 命委員          将来というのは何年先かわかりませんが、私はもう少し将来ということは余り使わないで、時代が超スピードで変わっていきよる中で、やっぱり幼稚園、保育一元化という中で幼稚園をどのように、我々は教育界のことはわかりませんが、重要視されてるのか。うちのひ孫も今、市村へ行っておるんですけど、歩いて二、三分のところの来年は資格があるんですけど、幼稚園は嫌ですと。市村へ行きますと。頑として子供心に聞かんわけや。ということは西淡の幼稚園、6園が今のところあるんですけど、児童数が非常に少ない、経営を維持していくのが難しい。その中でお母さんたちも幼稚園を置いておけとか早く幼保一元化にしてほしいとかいう形の中で、西淡町は従来、みかり会が保育園を、我々もずっと行政が頼んできた中で、保育に踏み切る場合には行政と今まで頼んできた民間との子供の3歳児までの争奪戦になると。そういうことになれば恩をあだで返すようなこともあるし、いろいろとこの間もみかり会の人と園長と話しておった中で、意欲は十分持っておるわけですけど、何せ幼稚園という学校教育の完全性があるわけで非常に難しい問題なのでなかなか意見は軽はずみに言えないという形の中で、早く教育委員会としてもこれだけの学校、児童数が少なくて統合という中で、跡地問題もある中で、やっぱり建物があいておるのにいまだに跡地問題が宙に浮いたままと。これは必然的に学校、体育館もさらやし、施設があいてしまうという形の中で全然構想がないと。そういったことの中でもう少し教育委員会にもはっきりと跡地利用も考えた中で統廃合というものを考えていくという、関連していかなければ結局、町関係の建屋が非常に学校関係で今まで整理ができてない。津井小学校にしたって、丸山、旧と新も全然できていないというようなことの中で、そういったことを教育委員会としてはどう思ってるんですか。将来将来って何年先を夢見てそんなことを言いよるのか、それははっきりしてもらわんことには、子供そのものに被害というか、子供心にでも被害があると思うんです。どうですか。



○久米啓右副委員長 教育部次長。

○教育部次長（太田孝次） 今、幼稚園の交流ということで進めているわけなんです、今まで説明会とか行ってきた中で、考え方の中で保護者の皆さん方は、できるだけ多くの人と子供たちが交流をする、遊びの中で育っていくという感じを持っておられますので、そうした交流とか統合とかそういうものについては十二分に理解されているというような感じをいたします。

そして、先ほど川上委員さんから言われた跡地利用の問題につきましては、そのまま放っておくとか、そういうのはなかなか難しいんですが、そうしたことも視野に入れて順次教育委員会としてこういうふうにやっていくというような、何かしら青写真のものを示していく必要もあろうかと思うんですが、早急にそうしたことを具体的に判断するということは難しい面もありますので、十二分に今後において検討、跡地利用も含めた上で、交流等、統合等も考えていきたいと、そのように思います。

○久米啓右副委員長 川上委員長。

○川上 命委員 何遍でも言うようですが、小さい子供でも市村へ行って大勢の、90人から100人の中でもまれて、もう嫌にならへんか、伊加利の隣の幼稚園のほうがええと思うんですが、大事にしてくれるしということですが、子供心にはやっぱりどうしても3歳児でも市村の幼稚園へ行くんだと。絶対、伊加利へは行かないと。伊加利の幼稚園へ連れて、ならそうとしても、なかなか幼稚園の先生を見たら泣くし、そういった環境にも子供はやっぱり大勢の中でもまれて友達がたくさんおるといの中で、そういった心・・・ということになれば、西淡町の幼稚園教育、幼保一元化がおくれたために幼稚園が今少人数であるという中で非常に運営上困っておる。統合と言いつつなかなか統合ができないと。だからもう少し行政判断というものははっきりせな、お母さんはやっぱり幼稚園は残しておかんとあかんという者もあれば、早く川上さん、何とか幼保一元化に踏み切ってくださいよ、働くので子供を安心して預けられるところが欲しいんだということも、いろいろ意見あるわけです。その意見を集約するのは我々はなかなか地元として個人的な判断はできない、判断をうかうかしよったら自分自身にかかってくるということで、なかなか、そういったことで行政判断というのはもう少し、ぱっと挙げたらそのようになっていくと思う。あまりにも将来とか何とか、いや慣らすんだとか。慣る慣らさんは、統合してもらったらそういうこともちゃんと大勢の中で自然的になれると思う。そういったことでもう少し教育委員会はちょっとのんびりし過ぎていると私は思うんですが、どうですか。

○久米啓右副委員長 教育部次長。

○教育部次長（太田孝次） 幼稚園の統合につきましては4園を26、27年ぐらいには統合するということを説明会でもしておりますので、そうしたことに向けて、今段階的に交流を進めているということになっておりますが、保護者とか地域の人の意見を十二分に聞いて、今後においても説明会等ではっきりとしたことを言っていきたいと、そのように思っております。

○川上 命委員長 よろしく申し上げます。終わります。  
ほかに。  
小島委員。

○小島 一委員 適応教室の件でちょっとお伺いしたいんですが、現在、市内の適応教室は4カ所あると思うんですけど、大体その現状どうなっていますか。

○川上 命委員長 教育課長。

○学校教育課長（安田保富） 適応教室につきましては非常に流動的ではございますが、西淡教室が日常的に来ている、学校へ行ったりこっちへ来たりするんですけども1名、それから緑のほうは今、毎日通室している生徒児童はおりません。三原のほうが3人から4人。南淡のほうがかかわっておるのが2名ですが、学校へ行ったりというような感じで非常に流動的ではあるんですけど、そういうような現状かと思えます。

○川上 命委員長 小島委員。

○小島 一委員 緑が今ゼロというふうなこと、私も聞いておるんですけども、対応する職員と言うていいのか先生と言うていいのか、そういう方たちはどういうふうな体制になっていますか。

○川上 命委員長 教育課長。

○学校教育課長（安田保富） 現在、緑、三原で指導員が3名、兼務しておる者がおります。あと南淡に2名、西淡に2名と、7名体制でございます。

○川上 命委員長 小島委員。

○小島 一委員 淡路市のほうでちらっと聞いたんですけども、こういう何か所かの適応教室に対応するようなセンター方式をとっておるというふうなことも聞いたんですけど、これは御存じですか。

○川上 命委員長 教育課長。

○学校教育課長（安田保富） 淡路市のほうはセンターだと思います。

○川上 命委員長 小島委員。

○小島 一委員 今、緑はゼロということは3名の方全員が三原へ行っておるというふうに理解するんですが、今も言うたみたいに非常に対応する児童が流動的であるというふうなことの中で、それに対応するためにはやっぱり1カ所中心となるところから必要な数の指導員を必要な場所へ送るというふうなことも考えていいんじゃないかと思うのですが、どうないでしょうか。

○川上 命委員長 教育課長。

○学校教育課長（安田保富） 緑、三原ですが、もう少し詳しく申し上げますと、1名1名はそれぞれの教室におりまして、1名が緑と三原を行ったり来たりしているという状況でございます。やはり学校との常時訪問したり訪問を受けたりというつながりがございまして、入れかわり立ちかわり指導員がかわるというのは望ましいことではないというふうに考えております。

○川上 命委員長 小島委員。

○小島 一委員 それは確かにそうだと思います。常時というか学校の先生も毎年かわっていくわけですし、市内でしたらやっぱりそういうある程度柔軟性を持って対応する方法がいいのかなというふうに思いましたのでこういう質問をしとるんですけど、今後、なるべく効率のいいといたら悪いんですけど、どういうふうな対応、体制の仕方がいいのかということをまた研究して行ってほしいなというふうに思います。私のほうもまだ淡路市のほうも1回も行ってませんので、いろいろ研究はしてみたいというふうに思います。終わります。

○川上 命委員長 ほかに。

森上委員。

○森上祐治委員　市の広報の中でちょっと質問させていただきます。市の広報の8月号には終わりの23ページに地域のみなどと元気で生き生きとした生活ということで、いきいき百歳体操というのが出てました。詳しく説明されました。10月号のほうにも、いきいき百歳体操サポーター研修というようなことも、これは包括支援センターのほうから出されてるんですけども、このいきいき百歳体操、これは非常にええことだと思うんです。市のほうも健康福祉部中心にいろんな高齢化社会の中で市民向けのメニューを考えられて、私も何回か参加したことあるんですが、このいきいき百歳体操というのは、全国的などか中央のほうでつくられたんか市のほうで独自に考案されてしたんか、その辺からまずお聞きしたい。

○川上 命委員長　健康福祉部次長。

○健康福祉部次長（小坂利夫）　このいきいき百歳体操は平成15年に高知市のほうで始まった体操でして、現在全国で言えば、詳しくは覚えていないんですが、十数道府県で行われていると思います。南あわじ市は昨年から取り組みました。全国的な動向としてはそんなところですよ。

○川上 命委員長　森上委員。

○森上祐治委員　今の次長の説明、これどこかで聞きましたね。誰かの一般質問か委員会かで過日、去年かことしか知らんけど誰か質問して、高知市で始まったんやなというのを今、思い出しました。私、忘れていただけなんですけども、こういう非常に高齢者向きの体操というのはええことだと思うんですが、これは大体、地域で自主的にやったださいよということを書かれています。これは大体傾向として、市内32カ所でやっているとことなんですけども、これは昼やってるんですか、夜やってるんですか。

○川上 命委員長　健康福祉部次長。

○健康福祉部次長（小坂利夫）　現在では市内34カ所で行われて約600人の方が参加されております。実施の時間帯ですが、昼、午後1時半ぐらいからやっているところが大半です。あと地域によっては午前中にやっているところもございます。以上です。

○川上 命委員長　森上委員。

○森上祐治委員 当然、高齢者が行くんですから夜は危ないですよ。昼だと思っ  
ますが、広報でこういう情報宣伝をやられていると。多分ケーブルテレビなんかでもされて  
るだろうと思うんですが、具体的に各地域でこの人はもっと運動したらええんやないかと  
いうようなことで、例えば民生委員さんとか誰かが具体的に勧誘したりする動きをされて  
るんでしょうか。

○川上 命委員長 健康福祉部次長。

○健康福祉部次長（小坂利夫） それぞれの会場で参加される方については、それぞれ  
会員さん同士が、あの人を誘ってみいひんかとか、参加者が口コミで広げているというふ  
うなところが主なところでございます。

○川上 命委員長 森上委員。

○森上祐治委員 ということは、8月号で出ている写真なんか見たらかなりの御高齢の  
方が多いということで、自分で会場まで行ったりしにくい人も当然いると思いますね、こ  
れは立つのが楽になったというような感想を述べられてるということは、ふだんは余り運  
動せんと、座ったままの生活が多かった人もいるのかなという感じがするんですけれど、  
そういう送迎なんかも口コミで誘った人が乗せて行ってやるという形を今のところとっ  
てるのかなと。

○川上 命委員長 健康福祉部次長。

○健康福祉部次長（小坂利夫） できるだけ会場へは歩いてきていただきたいというの  
が願いです、歩くということが非常に大事ですので。ただ、歩くことが困難な方につい  
ては、やはり同じ会場でおられる方がお互いに助け合うて会場に来ていただくと。運営は基  
本的にそれぞれの会場で、みずからが行うということを基本にしております。

○川上 命委員長 森上委員。

○森上祐治委員 今聞いたら、歩くことが基本やいうたら、会場までは相当近いところ  
でないか。というのは1つの少なくとも町内会レベルの単位で今やって、市内34カ所  
ということなんですか。私は阿万なんで、阿万だったらどのぐらい、どんな形で今実施さ  
れてるんでしょうか。

○川上 命委員長 健康福祉部次長。

○健康福祉部次長（小坂利夫） 阿万は今2カ所で行われております。北阿万で1カ所、阿万の吹上の公会堂で1カ所でございます。自治会単位ぐらいで開催していただきたいということで、自治会単位でやっているところもありますが、それが難しい場合、その範囲を広げてやっているところもございます。

○川上 命委員長 森上委員。

○森上祐治委員 この写真とか説明を見てましたら、私の年だったらまだちょっと早いかなど。行く行くはこういう体操もしたいなと思っておるんですが、ただ器具も使用して、貸し出しと書いてあったんですが、こういう筋力トレーニング、何か器具も使っておるんですか。

○川上 命委員長 健康福祉部次長。

○健康福祉部次長（小坂利夫） 使っておる道具は手首におもりをつけます。おもりをつけるためのバンド、それについては市のほうで貸し出しをしております。具体的な器具としてはそれぐらいで、あとテレビとDVD、もしくはビデオの再生をできる機械については地元で、やっているところで用意していただいております。

○川上 命委員長 森上委員。

○森上祐治委員 こういう広報で見たり、あるいはケーブルテレビで見たりしたら、会場に行かなくても自分でちょっとこれやってみたいなど。例えばこれに対するビデオであるとか今の器具、私個人ですが、私もちょっとこれ市販で、貸し出しというのは、多分会場に貸し出しだと思ってるので、個人で買うとしたら輪っかみたいなの、これ高いんですか。

○川上 命委員長 健康福祉部次長。

○健康福祉部次長（小坂利夫） バンドとおもりで1人大体2,500円ぐらいで購入しております。集会所に集まってやっていただくというのは、まず体操そのものを正しく理解していただいた上でやっていくということで、最初、新たに立ち上げる地区に対しては保健師が4回、毎週1回ずつ行って指導いたします。やはり体操によってやり方によっ

ては逆に痛めてしまうというふうな場合もありますし、血圧を高くしてしまうということもありますので、正しい体操をまず指導させていただく。そのためにはやはり集まっていたいただいて、お互いに確認しながらするほうがよいというふうに思っております。1カ所に集まることによって、また閉じこもり予防なんかにもつながるというふうなことで、1カ所に集まったの体操ということで進めております。

○川上 命委員長 森上委員。

○森上祐治委員 10月号にはサポーター研修ということで案内があるんですけども、ということは各34カ所で具体的に運営していると。これは地域の町内会とか住民のほうで運営するというのが大原則ですね。具体的には例えば1つの町内会というのは、どの辺が音頭を取ってやってるんですか。

○川上 命委員長 健康福祉部次長。

○健康福祉部次長（小坂利夫） 高齢者が対象ですので、高齢者の方々には声かけはさせていただきますいております。自治会については会場ということで、地域の公会堂をお借りすることもたくさんありますので、会場提供などについてはお願いしているところでございます。去年はモデル事業ということで、西淡、南淡、三原、緑の順番で、公民館等でモデル事業を行いました。それらを見ていただいて、結構ええなというふうなことで広がり始め、今では口コミによって広がっていているというふうな状況かと思っております。

○川上 命委員長 森上委員。

○森上祐治委員 具体的に高齢者の場所だと。会場に足を運んで体操していると。ええことだと思んですけども、従来いろいろ何年か前からモデル事業ということで、国や県の補助でやられていると。ほかにまだ、ことしこういう類いの高齢者向けの事業というのはこの百歳体操以外にあるんですか。

○川上 命委員長 健康福祉部次長。

○健康福祉部次長（小坂利夫） 今までどおりの健康教室とかああいうのは引き続いてやっておりますけども、このいきいき百歳体操は今主に力を入れているところでございます。

○川上 命委員長 森上委員。

○森上祐治委員 関連してもう1点だけ。同じ広報で高齢者を抱える家族の会、毎月これ案内が出ていますよね。10月号だったら認知症の高齢者を介護されておる人、介護の悩みを抱える人同士が日ごろの思いを話す場ですというようなことで、これは10月の場合だったら10月10日に三原公民館で実施されていると。この参加状況というのはどうなんですか。

○川上 命委員長 健康福祉部次長。

○健康福祉部次長（小坂利夫） この会は認知症を抱えている家族の皆さんが参加してお互いに情報交換とか介護相談等を行っている会で、毎月第2水曜日の午後に行っております。今5人程度が参加していただいております。

○川上 命委員長 森上委員。

○森上祐治委員 今、高齢者の、高齢者ばかりじゃないんですが、認知症というのは再三テレビでも報道され、国民的な健康面での課題になってきてますよね。こういうことで市のほうも家族の会、これは自主的にそういう認知症患者の家族の方がつくられたのか、市の長寿福祉課等の指導でなのか、ちょっとお聞きします。

○川上 命委員長 健康福祉部次長。

○健康福祉部次長（小坂利夫） この会は、市のほうが地域包括支援センターが音頭を取らせていただきまして、社会福祉協議会や市内5カ所あります在宅介護支援センターの協力を得ながら行っているものでして、あとはそういう広報でもって参加について呼びかけているところでございます。

○川上 命委員長 森上委員。

○森上祐治委員 認知症の方を抱えている家族は大変な、私の知り合いにもそういう家族があるんですが、大変なんで、できる限りいろんな形で行政としても支援していただきたいなとお願いして質問を終わります。

○川上 命委員長 ほかにございませんか。



質疑がございませんので、質疑を終了します。

次にその他に入りますが、何かございませんか。

登里委員。

○登里伸一委員　生活環境ではないと思いますので、その他で副市長がおられますからお聞きします。普通一般の住民の人と話をしておりますと、新庁舎建設とか農学の誘致とか、大きな財源を使ってやっておることにはほとんど関係ないというか、関心ないですよ。関心という関心の仕方が違うんですが、我々のような立場の者とは全然違いますね。どういうことを言っておるかという、それよりも市道や県道等の側溝といいますか、土上げなんかをあるところでは昔は常人夫さんという言い方でええのかと思いますが、雇用してそういうことをきちっと全部やっておった。今はもう全然そんなのがないなというようなことでした。用排水路については田主とか農業の従事者がやると思うんですが、こういうことは目立たないんですけども地域の住民にとっては非常にありがたい、生活に身近なことをやっておることが非常にありがたい施策であるというふうに言っております。そういうことを住民サービスとしてやるようなことを考えてほしいと思いますが、その辺はいかがでしょうかね。

○川上　命委員長　副市長。

○副市長（川野四朗）　先ほどの道路の維持管理につきましては3年前から緊急雇用というような形で雇用して、かなりの草刈り、それからそういうふうな側溝の清掃等もやってきていただきました。ことしは2人にいたしました。去年は10名、その前は8名というふうにして、おっしゃっておられるようなところについても我々としては何とか手当てしていきたいということでやって、結果、結構な効果は出したんだろうと思います。そのほかでも、各自治会からこういうところが詰まっているよというようなことを要望で上げていただいて、我々のほうでしなければいけないところについてはできるだけやっていくという体制でありますので、そういうところ、事前にやっていたら一番いいんでしょうけど、この広い市の区域の中の市道含めてなかなか管理もできませんので、お気づきがあれば市のほうに連絡していただければ、現場のほうも見ていただいてそれもやることのできるかと思います。

それから、皆さん方も御承知やと思うんですが、いなりこ予算ということを各庁舎ごとに100万円ずつつけてあるわけですが、どうしても市のほうでは対応できないような小さいもの、それからお金がかかって住民がボランティアではやれないところは、そういうものも配置をしておりますので、総合窓口センターの所長さんに御相談いただくなり自治会長さんを通じて市のほうに要望していただくなりしていただきましたら、我々のほうで

も適切に対応はしているつもりでございますので、一度そこらあたりをやっておられるのかどうかお聞きしていただいて、やってないということであれば、また市のほうに要望を上げていただければと思います。

○川上 命委員長 登里委員。

○登里伸一委員 よくわかりました。そのように言いますが、そういう身近なことをぜひやってくれというのが趣旨でございます、ちなみに私が住んでいた西淡町では、よそのほうの地域ですから、そういうことを聞きまして、そういうことをやっていた町もあったんだというのを聞きまして、舗装がめくれてちょっと穴ぼこになってるところなんかは直接いなりこのほうへ頼んだりしておりますが、これからは窓口へ申し込んでいくということでもよろしゅうございますね。全部やれなくても、やれるところをやってもらうたらええんですから。そういうことを申しておきます。終わります。

○川上 命委員長 ほかに。  
健康福祉部次長。

○健康福祉部次長（小坂利夫） 済みません。先ほど森上委員の質問で、阿万地区での開催箇所数という質問がありまして、2カ所と答弁させていただきましたが吹上公会堂1カ所の間違いでした。訂正させていただきます。

○川上 命委員長 よろしいか。  
それでは執行部から何か報告がありましたら。ございませんか。  
ないようでございますので、これで終わります。  
副委員長のほうから閉会の御挨拶を申し上げます。

○久米啓右副委員長 それではこれをもちまして文教厚生常任委員会を終了いたします。  
どうも御苦労さまでした。

○川上 命委員長 どうもありがとうございました。

(閉会 午前11時45分)

委員会条例第30条の規定により、ここに署名する。

平成24年10月15日

南あわじ市議会文教厚生常任委員会

委員長 川 上 命